
議 事 要 旨

議 題：第 3 回 エキサイトよこはま 22 懇談会

開催日時：平成 24 年 5 月 22 日(火) 18:00～20:00

場 所：パンパシフィック横浜ベイホテル東急

地下 2 階 アンバサダーズボールルーム

出席者：名簿を参照

議事内容：下記参照

1. 開会（事務局よりご挨拶、会議趣旨の説明、新委員紹介）

2. 横浜市あいさつ

○横浜市 鈴木副市長

2 年前までエキサイトよこはま 2 2 の計画づくりを担当し、皆様と議論させて頂いたことに懐かしさを感じている一方、懐かしさだけではいけないので、この計画をしっかりとスピード感を持って進めていくことが我々に課せられた責任と改めて痛感している。議論を重ねながら横浜駅周辺を良いまちにしていきたい。平成 21 年に計画がまとまり、その後まさに実践として皆様のご協力を頂きながら進めてきたところ。

昨年度には横浜駅西口駅ビル計画の環境アセスメントの手続きが完了した。また、安全の視点から行う鶴屋橋の架け替えも、鋭意検討を進めながら今年度中には現地での動きが出てくる状況に至っている。エキサイトよこはま 2 2 の中では、既に戦略の一つとして「安全・安心戦略」を掲げているが、昨年の東日本大震災を受け、まさにより安全なまちにしていくためにどうするかという視点が今まで以上に重要になってきている。そういった点も含め、さらなる検討・取り組みを重ね、この場でご報告させて頂きたい。

一方で、国から横浜市が、特定都市再生緊急整備地域の指定や環境未来都市に選定して頂き、追い風になる動きもある。厳しい財政状況、社会状況の中であるが、大いに議論させて頂きながら横浜市の未来につながるまちづくりを進めていきたいと思っているので、引き続きご協力をお願いしたい。本日はエキサイトよこはま 2 2 に関する、昨年度の取り組みと今後の方向性についてご議論させて頂きたいと考えている。是非ご忌憚のないご意見を頂きたい。

3. 事務局より資料説明

議事要旨

(1)「国際社会が認める災害安全性の実現」について

(2)「世界が選ぶ国際交流都市の実現」について

4. 意見交換

＜議題 1.「国際社会が認める災害安全性の実現」について＞

○倉知委員

- ・ 鶴屋地区街づくり協議会は、鶴屋橋の架け替えを中心的なものとして捉え活動している。鶴屋橋の架け替えを、「国際社会が認める災害安全性の実現」における具体的な重点事業として位置付けて頂いてとても感謝しており、身の引き締まる思い。現在すでに具体的に進んでいるところではあるが、その中で私たち街づくり協議会が一貫して話をさせて頂き、現行の鶴屋橋の歩道の幅 2m を、今回の計画で 2.5 倍の 5m まで拡幅してもらうことができた。これは、我々が粘り強く話をさせて頂いたことと、市関係の皆様がご努力して頂いた成果だと思う。
- ・ 「国際社会が認める災害安全性」の観点からすると、横浜駅きた西口を出た際、とても狭いところにたくさんの人が集まっている。現行の鶴屋橋を拡幅することに加えて、横浜駅きた西口再整備の中でももう少し広く広場をとれないか。鶴屋橋の架け替えは何十年、百年に一回かのとても大きなチャンスなので、その時に駅前の広場の整備を橋の拡幅に合わせて、ふた掛けが無理でも半分くらい架けるとか、或いは少し川にせり出して広場をつくるとか、是非お願いをしたいと思っている。現在でも MM 2 1 地区からかなり外国の方が地下を通ってきた西口へ来て、狭さや周辺環境が国際社会が認める街かと考えたら、もう一段のきた西口の拡幅・整備に関して、安全性の見地から更なる見直しとお力添えを頂ければと思う。
 - きた西口の整備は必要と考えている。今後河川管理者と協議しながら様々な方向を検討したいと考えている。(事務局)
 - 具体的な中身についてはまだ様々な課題があるということで、これからまた皆さんと議論させて頂きたい。(座長)

○野並委員

- ・ 帰宅困難者の対策としては二通りのことがあると思う。一つは社員を自宅に帰さず会社の中で留めて置くということ。もう一つは帰宅難民になった人たちを受け入れるという対策があると思う。横浜駅周辺はかなりの就業人口を抱えているので、まずはそ

議事要旨

うした方達が帰宅難民にならないように、社員を自宅に帰さないで会社内に留め置くといった方策が必要ではないか。それがある程度できることを前提にして、理解されると、その延長として一般の帰宅難民を受け入れるということが可能になってくると思うので、是非そうしたことも官民一体となって進めていったら良いのではないかな。→発生抑制の取り組みとして、横浜商工会議所や横浜市工業連絡会等の団体に、発災時には従業員を一時留め置くように要請している。また個別の事業者についても 24 年度内に留め置きの方針を実施する方針であり、ご協力をお願いしたい。(事務局)

→この問題は個々だけの対応だけでなく、やはり地域全体で考えていく部分である。

(座長)

○澤委員

- ・ 地域の代表という形で本会に参画している。帰宅支援の問題で話があったが、私も帰宅支援検討部会に年何回か参加している中で、企業が従業員を帰さないとか、企業で一時避難施設や備蓄品を確保するというような事は聞いているけれども、これらを現実にはどのような形で確認する方法があるのか。部会で話をしたことがあるが、納得いく回答を頂いていない。強制という訳にはいかないが、例えば、こういう施設ができました、こういう協力をしますという事業者がいた場合に、実際に現地に出向き、受入施設や備蓄品の内容等について確認する機関や方法を考えていただきたい。
- 現状そのような仕組みになっていないので、今後検討したい。(事務局)
- 部会の中でこれまで議論をさせて頂いていると思うが、その中でさらに具体的な形で検討していきたいと思う。またその場で色々ご意見をいただきたい。(座長)

○風間オブザーバー

- ・ 次の「国際交流都市の実現」にも関係するかも知れないが、現在できる取り組みと将来的な取り組みについてまとめられているこれらの対策について、対外的にどのように発信していくのか。国際的な発信も必要になってくると思うが、個々の企業がするのか、あるいは、一連の情報をまとめて発信するのか。
- 現段階で明確なものがないが、一つにはこうした懇談会を開催して PR をしたり、議事をホームページに載せてインターネットで提供していく。そのほかに、一般の方に PR できるような有効な方策が必要と感じており、今後の検討課題であると考えている。(事務局)

議事要旨

- ・ 一般市民の方への周知だけでなく、国際的に横浜がどう見られているかも非常に大事だと思う。ホームページ等も発信する道具としては有効であるが、日本語以外にも英語や中国語とか、お客様としては東南アジア、中国など今後のターゲットになってくると思うので、外国語での発信を検討してはどうか。
→・プレゼンの中で説明したように、インフォメーションセンターを充実させて横浜のアピールの仕方をより工夫し、災害安全性の強化など観光案内だけではなくものを横浜のシティセールスとして織り込んでいければと考えている。(事務局)
- ・ 極めて重要なテーマで、情報を単に提供するのではなく、中身が伝わって理解をされないといけない。そのための広報の仕方も工夫が必要で、行政も当然一緒に頑張って対応していくべき課題であるとする。(座長)

○中山（博）委員

- ・ エキサイトよこはま 2 2 は横浜市周辺の全体を考えるものと思っている。今回の議題は、「国際社会が認める災害安全性の実現」と「世界が選ぶ国際交流都市の実現」とあるが、今回の会議が終わると、次の会議までに、インフラ基本計画の策定、ガイドラインの更新がなされる。ここにお集まりの皆さんは一年に一回だけ参画する。3.11以降のガイドライン検討会や基盤整備検討会における主要な議題はもちろん災害であった。これは人命を預かる横浜市としても、お客さんを預かる我々、駅周辺の企業にしても大変重要な課題である。この場で皆さんと議論をしたいのは、例えば、基盤整備の主な検討項目である構想図について、誰か見たことはあるのか。水のまち関連では帷子川河口の整備を言っているが、これはエキサイトよこはま 2 2 が始まる前の問題ではないか。西口駅前の交通基盤関連については、何も聞いていないので検討もできない。
- ・ 景観・環境については、西口駅ビル計画の環境アセスメントの手続きは終わったと言うが、私は環境アセスメントの審議会を傍聴しており、先生方は「エキサイトよこはま 2 2 という組織がある限り、そこで環境・景観は検討して頂けるだろう」との意見であった。我々はそれについて、どういう部分が良いか、どうすべきか、ガイドライン検討会でも縷々述べたが、それがどういう形で現れるか示されていないので検討できない。災害・救助については、新田間川・幸川のところに筏を作ったということだが、川に人が落ちた場合に備え、最低でも 50m おきに浮き輪を並べておき、それにロ

議事要旨

ープを 50m も付けておけば人が助かるのではないか。かつて横浜の運河は全て石垣であったが、現在はその内側に垂直なコンクリートをつくっているため、誰もよじ登れないし救助もできない。やれることからやるべきである。

- ・ 河川の治水においては、国の方にも聞きたいのだが、内海橋は満潮時に橋げたまで水が来る。これが増水した時には防波堤になり、水が橋の上にも上がってくる。これを検討して欲しいと何度も言ったが、材料としても出てこない。一応我々が言ったことは材料として前に出して欲しい。予算の関係等色々なことがあると思うが、将来はこうあるべきだという姿を示すのが、我々懇談会の役割だと思っている。

→まちづくり関係者の方にはガイドライン検討会で声をおかけしている。例えば環境・防災・景観などで、どういうものを新しい開発の中で誘導していくかは、基本的に市で原案を作り、地域の皆さんと共有し、手を伸ばせば届くものを合意形成の上で作っていくというのがエキサイトよこはま 2 2 の考え方である。まちづくりの案件を抱えている関係者の方々とはガイドライン検討会で年 2 回ないし 3 回お会いする機会もあり、説明のリクエストがあればすぐに対応するつもりで取り組んでいきたい。内海橋の指摘に関しては、平成 16 年の台風の際に被害が出ている経緯もあるので、財政状況との見合いや、河川管理者や神奈川県との調整もあるが、問題意識を我々も持っており、議論を始めたいと考えている。(事務局)

○大久保委員

- ・ 帰宅困難者の問題について西区も当事者区として主体的にかかわっていく立場であると認識している。歩行者の動線の問題や一時受け入れ施設についての話があった。先ほど野並委員から社員を帰さない、それからその延長として帰宅難民を受け入れることができるという話があったが、その通りだと思う。
- ・ 3.11 の震災が起こった当座は、何が起きているのか分からない、ということをそれぞれの方が感じたと思う。実際の被害の状況、これから何が起こるか分からず右往左往する状態が被災直後の状況である。横浜駅周辺で被災された何人かの方に話を聞くと、「地下から外に出よう」、或いは「建物から離れよう」、という意識が働いたということであった。今後具体的な整備計画がまとまっていく駅前広場について、人が流れていくことを意識した計画づくりをお願いしたい。

→駅前広場については防災機能、広場への動線など含めて基盤の中で今後検討していく。(事務局)

○小谷副座長

- ・ 神奈川県による津波の浸水予測や横浜市の津波避難ガイドラインが発表されている。これは非常に大事なことであり、その内容について、事業者や市民に対してより丁寧な情報発信をお願いしたい。例えば、神奈川県の浸水予測において、慶長型地震のケースでは、横浜駅周辺は最大で 4 m の津波が発生し、駅周辺が水没してしまうという状況になる。高いビルが数多くあるので、そちらの方に逃げれば良いと思うが、デパ地下や地下街の浸水防止対策はどうか。これらが浸水すると排水だけでも数か月を要し、横浜駅東口と西口の都市機能が麻痺してしまうと我々、事業者サイドとしては予測している。
- ・ 東日本大震災で津波が注目されているが、横浜の場合は東京湾口から距離があるので、津波で多くの人命が失われることはあまり想定していない。むしろ、阪神淡路大震災のような被害の形が予想されるのではないかと。住民をどうやって火災から逃がすかなおざりになっていると思う。また、帰宅困難者の問題だが、すべてを行政や社会に頼るばかりではなく、命に別状がない限りは、自己責任、各事業所の判断で対応するという心構えが必要である。

→神奈川県のシミュレーションでは海拔 4m ぐらいの津波が慶長型地震で起こりうるということで、確率は低いかも知れないが、一度起こると甚大な被害を及ぼすものとして見る必要があると思う。避難にあたっては、江戸時代に陸地だったところへ行かないといけない、ということが言えると思っており、横浜駅周辺における標高 5 m 以上の場所は、北の方の台町や、沢渡、軽井沢方向、南側の掃部山（かもんやま）などが該当する。まちづくりとしてどう受け止めていくか考えないといけないが、避難が軸になることは間違いない。インフラ関連で説明したように、海拔 5 m 以上で人々が動くことができ滞留できる場所がどこにあるのか、どこを今後つなげていくのか、という議論がある。また、標高の高い場所をしっかりと認識しておく必要があるということと、ビルの上階にあがっていかねばならないということを組み合わせていく。これらが津波型に対するまちづくり側の基本的な考え方である。一方で、危険性が高まっていると言われている首都直下型の地震が起こった際に、建物の被害が大きく、鉄道も 1 日では回復しないとなった時のシナリオと、津波に対する避難を軸としたシナリオとを、別を書いてお

議事要旨

かなければならないと考えている。(事務局)¹

○泉委員

- ・ 津波が襲ってきた際に水没してしまう鉄道事業者として一言申し上げたい。テーマとして「国際社会が認める災害安全性の実現」を掲げるのであれば、津波に対して避難が第一というのは十分認識しているものの、5m の護岸整備をただちに行っていたきたい。インフラとしても国際社会が認めるレベルの安全性の実現をお願いしたい。
- 想定している 1.4m の高潮高を超える津波（1.6m）が昨年の 3.11 に横浜港で観測されている。ハード整備として取組むレベルをどこに定めるかが我々に与えられた課題であり、急いで検討を進めている。(事務局)

○中山（博）委員

- ・ 東口の低い駐車場やバスが出入りする場所が浸水すれば、横浜駅は一気呵成に水が入る。非常に問題なのは、MM線、東急東横線、市営地下鉄には、駅のホームからトンネルに至るまでの間にシェルターがないこと。地下鉄において西口を起点に三ツ沢上町から上大岡周辺までの範囲に渡り、非常に甚大な被害が起きることが想定される。今の地下鉄の T.P.（※1）が歩道から非常に低いためであるが、高くすると今度は利便性が悪くなる。どこでそれを止めるか。対策としてはまず避難が第一と言われたが、先ほど説明にあった岡野公園の T.P.はいくつだと思っているのか。地震の後に津波が発生したら水没するかもしれないところに誘導しないで欲しい。もう少し大きく考えて、基本的な考え方をきちっと整理しないといけない。
- ・ 私が前に申し入れたのは、エキサイトよこはま 2 2 が出来てから最初の建物となる、西口駅ビル計画の G.L.（※2）の位置をたとえ 50cm でも良いから上げられないだろうかということ。そうすれば、その後は右に倣えとなり、西口全体の地盤にしても東口にしても G.L.自体を T.P.2,500（mm）にするとか 3,000（mm）にするといった本当の基準が出てくる。今一番心配しているのは、地下の自由通路であり、ダイヤモンド地下街から地下鉄に水が流れ込む。実際に平成 16 年 10 月 9 日に何十棟とい

（※1）T.P. : 東京湾平均海面
東京湾の平均的な海面高さのことで、全国の標高の基準（標高 0.0m=T.P.）である。

（※2）G.L. : 地盤線

議事要旨

うビルが地下に浸水した。地盤が低いのは岡野町であり、水没すると消防車が 1 台も通れず、救助も出来ない。長いレンジで結構なのでこうしたことを懇談会の俎上に挙げて頂きたい。

→直下型地震、津波、水害をきちんと分けし、行政の対応、事業者の対応、来街者への情報提供の方法というものを切り分けていかないといけないと考えている。
(事務局)

○岸井委員

- ・ 新しい想定に基づくリスクをいかに低減するかという問題について真剣に取り組もうと考えている。特に地下部分についてはかなり広範につながっており、現状どこがどんな高さかを押さえたところである。それに加えて、どうマネジメントしていくかということも合わせながら、最大の津波、高潮が来ると逃げるしかない訳であるが、最大の安全性を確保するための計画を定量的に検討したいと思う。駅周辺で発生する帰宅困難者に関しては、原則的には企業の皆さんの協力を得て、むやみやたらに集合することのないよう、いかに情報提供を行うかが一番大事であると思う。心配で集まって来られたことによって事故が起きることの方が心配である。まだ定量的な分析が十分でないので、改めてそうした作業を行った後に、ご提供できればと考えている。

○小林委員

- ・ 今、議論されている「国際社会が認める災害安全性の実現」というテーマについては、東京の丸の内、九州の福岡・博多、大阪、名古屋、札幌、東京各地の駅周辺地区の民間を中心としたエリアマネジメント組織がまさにこのテーマで昨年議論をした。残念ながら、横浜はまだ民間のエリアマネジメント組織が出来上がっていないので、横浜市に出席して頂いた。そのことと絡んで少し話をしたいが、「国際社会が認める災害安全性の実現」は基本的に 2 つに分かれると思っている。一つは、災害が発生した時点で生命の安全が、例えば一両日、その地域にいても十分守られるという意味での安全性。もう一つは、災害が起きた後に、この地域がまた機能を復活させて、災害が起きても日本の中心部は立ち直れるということをしっかりと国際社会に発信すると共に、どの程度の期間で機能を回復し、国際的な活動を担う者がそこにいても十分な活動ができるということも併せて発信することが重要と考える。

議事要旨

当面は前者の議論で、その地域にいる方は発災時に行政だけに頼ることは大変難しい訳であるが、そこにいる個々の企業に任せるのではなく、バラバラで行動しても効率は上がらないので、皆さんであらかじめ組織を作って、行政に頼ることなく、この地域にいる方々が役割分担をして、その機能を果たしていくという仕組みを予め相談しておくことが是非、必要だと思う。先程話した、丸の内における議論の中で、六本木ヒルズのタウンマネジメント組織の代表が、今回の 3.11 の発災時に電力をすぐ自前で回復できたことは社会に知られているが、実は皆さんに知って頂きたいのはそうではないのだと発表していた。その組織では、発災した時に誰がどういう役割を担うかということを予め決めてあり、今回はスムーズに役割を担うことが出来たため、まちに来ている方の安全が十分に確保されていたようだ。そのことが非常に大きな意味を持つわけで、システムティックに機能したことについて、聞いている人も感心し、もっと詳細に知りたいという方が多かった。そういう仕組みを横浜駅周辺でも作りたい。これはエリアマネジメント組織の立ち上げについてであるが、なかなか準備会の段階から育っていない。今日お集まりの企業のトップの方々はそれぞれの立場で出席頂いているが、社員に「エリアマネジメント組織をちゃんとやれ」と働きかけたり、場合によっては「自分が中心にやってもいい」という人が出てくる、そういう地域にして頂きたい。

<議題 2. 「世界が選ぶ国際交流都市の実現」について>

○中山（久）委員

- ・ 私どもは市街地再開発事業に関して個々の財産を提供して会議を重ねてきておりますが、権利者に、これ以上の大きな負担がかからないよう配慮をお願いしたい。都市再生緊急整備地区に指定されているので、スピーディーに議論ができるように、条例や基準などの規制の緩和や適用の除外、新たな助成措置の導入、税制面での優遇、補助金の適用などによるサポートを併せてお願いしたい。

→容積や高さの緩和のレベルによって公共貢献がどの程度要求されるかは、バランスがうまく取れるところで決まってくると思っている。きた西口鶴屋地区の再開発については、まだどの程度の計画になるか分からないため、公共貢献について議論できる段階でないと思っている。具体的に開発のイメージが見えてきた段階で、公共貢献等について、ガイドラインに整合するような形で議論・調整してい

議事要旨

くと共に、特定都市再生緊急整備地域に指定されたことのメリットも生かしていきたい。(事務局)

○宮崎委員

- ・ 特定都市再生緊急整備地域、環境未来都市、ライフイノベーション国際戦略総合特区のトリプル指定を受け、再開発を推進していくツールを市が得たということで大変喜ばしいことと思っている。これからも市のリーダーシップのもとに地権者としてより良い駅周辺ができるように協力したい。国際会議の開催が増えることによって実際に世界に選ばれる都市の具体例になり、今後につながると思うが、第 5 回アフリカ開発会議を横浜市が勝ち取った際に、どのようなところが評価されたとお考えか。

→以前横浜で開催した第 4 回アフリカ会議が成功したこと、A P E C の国際会議において運営を含めて評価が高かったことなどから、今回の選定に至ったと考えている。今回の会議を成功させることによって、さらに国際会議の誘致に弾みがついていくと良いと思う。(事務局)

○野並委員

- ・ この 1 年の中でエキサイトよこはま 2 2 にインパクトを与えることが二つあった。一つは東日本大震災だが、もう一つは東京周辺の開発が急速に進んできていることである。本日オープンしたスカイツリー以外にも、渋谷やお台場に新しい商業施設ができ、東京の集客性が高まってきており、さらに、将来的には品川にも計画があるということで、油断していると横浜からお客さんがいなくなってしまうのではないかという危機感を持っている。そうした中で、横浜が一番の目玉として頑張るのがエキサイトよこはま 2 2 であると思う。どうしたら横浜駅周辺が安全・安心を含めた魅力的なまちになるかを考えると、やはり民間事業者が投資したくなる仕掛けが必要なのではないか。是非東京との都市間競争に負けないようなまちをつくるために、民間資本が投資をしなくなるようなフレームを作って頂きたい。

○川名委員

- ・ 資料 p. 10 の、「横浜駅機能の強化」の中に「外国人向けのインフォメーションの充実」という項目がある。一番目の議題とも関連するが、最近のゲリラ豪雨等の影響で、J R の基準では風速 25m 以上になると電車の運行を止めることになっており、ごく最近、

議事要旨

成田エクスプレスが止まったことがあった。その際に、英語のインフォメーションが一切なかった。通常時は J R、私鉄ともに十分にあるのだが。是非とも緊急時における外国人向けのインフォメーションを充実していただきたい。

→災害時、緊急時に外国語の放送があるかどうかは、現時点で把握しておらず即答出来ない。今、鉄道事業者と各自治体が、首都圏で想定される直下型地震などの発生時に誘導・備蓄を含めてどういう対応をするか検討している最中であり、順次環境あるいは準備が整っていくことになると思う。そういった際に、日本語だけでなく外国語も含めたアナウンスができるように対応したい。(林委員)

○渡邊委員

- ・ 地域間競争の話で、弊社も渋谷にヒカリエをオープンしたが、決して渋谷だけを重視している訳ではなく、横浜も重点地区であると考えている。国際交流都市というコンセプトがそれぞれの地域に類似した形で打ち出されている中で、横浜に期待したいのはホスピタリティであり、特に観光面でのポテンシャルは素晴らしいと思っている。また、横浜市の各区役所のサービスが飛躍的に高まっていると感じており、こうしたことが国際会議や国際企業の誘致に上手くつながり、東京とは違う国際交流都市が実現し、結果として鉄道輸送人員も増えることにつながっていけば良いと思う。横浜らしい国際交流都市の実現に向けた進め方を期待しており、我々も、P R 活動を含めできることをやっていきたい。

○今井委員

- ・ 羽田空港等の運用について、国際交流都市の実現に関した言及をさせて頂きたい。MICE の誘致や国際競争力の強化という観点では、横浜駅から空港アクセスの利便性の面で協力させて頂いている。今後、羽田空港の国際線強化に伴う外国人旅行者の増加を踏まえ、国際交流都市の実現のため、先程のインフォメーションや帰宅困難者の問題についても、横浜駅の周辺関係者の皆様方や行政と連携しながら対応できるように、情報交換の中で我々が自主的にできることは何か考えていきたい。

○小倉委員

- ・ 今年度、京急蒲田付近で東京都が連続立体交差事業を行っており、それに合わせて当社で京急蒲田駅の改良をしている。現在、横浜方面から羽田空港への運行は日中 1 時

議事要旨

間に 3 本であるが、改良後はラッシュおよび日中 10 分間隔にする予定。今回の高架への切り替えて、羽田空港から都心方面のアクセスの向上に加え、横浜を含む南側のアクセス向上も図る。

- ・ 国際交流都市の実現を期待しているが、資料で気になる点として、例えば、展示会場やホテルの数、駅周辺の回遊性、デッキなど、ハードの整備に力点が偏っている気がする。世界の主要な観光都市では、世界に向けて行政、民間企業、地域が一体となり、国際会議や国際展示会を誘致するための営業活動をしている。ハード面、ルール作りも必要だが行政を筆頭に世界各国に営業を行っていくような検討をして頂きたい。
→ハードだけでなくソフトも極めて重要と認識している。(座長)

○平野委員

- ・ エキサイトよこはま 2 2 のトリガーの事業として、東急電鉄とともに事業を進めているところである。環境アセスの手続きは昨年 12 月に完了し、現在、建物の内装等を撤去しており、近々建物本体の解体に取り掛かりたい。地元の皆様には工事期間中も齟齬のないように調整していきたい。また、新しい計画については、災害安全性の観点も踏まえて十分検討したい。市で検討している防災機能の整備誘導ルール等の内容を開示いただきながら、どこまで取り組んでいけるか検討したい。
→一日でも早い事業化をお願いしたい。(座長)

○岸井委員

- ・ 「国際交流都市の実現」に関して、エキサイトエリア内だけで検討しては駄目なのではないかと思う。他の地域と比較してどこが横浜の強みかを考えると、やはり横浜駅周辺地区と MM 2 1 地区・関内周辺まで含めた都心部の強さを訴えるのが一番良いと思う。
- ・ 例えば、帰宅困難者の問題でも、外国人の方に安心して住んでもらえるということ考えた際、関内に住んで横浜都心部で働いていれば何かあった時にすぐに自宅に帰れる、といった、そんな職住近接の環境が日本の他の都心にあるかというとなかなか無い。横浜駅周辺地区独自の都心の魅力というのをもう少しうまくアピールすることが大事。
- ・ この地区の開発を進めるためには、外部の広域的なインフラ整備も必要で、今はその事業を一生懸命にやってもらっていることを前提でやっているが、横浜環状道路や、

議事要旨

その後の接続の議論などがあり、それら広域的なインフラについて必要だと強く主張しておかないと、横浜駅周辺の検討だけ一生懸命やっても、なかなか都市間競争に勝てないと思う。

運輸政策審議会の答申で 2015 年までに整備すべき鉄道路線を列挙しているが、それに向かって市の中でもいろんな議論をして、例えば MM 線の延伸や、L R T の議論などの、広い意味での都心の活性化につながるインフラを、このエキサイトよこはま 2 2 の推進の観点から見ても、必要であるならば、必要性について強く訴える必要があると思っている。

○小林委員

- ・ 逆に私は、エキサイトの中の議論をしたい。先日、市長と話す機会があり話をしたが、観光案内所というと、日本の方は「あそこにあるね」程度の話で軽く済まし、横浜駅にも案内所があるけれども、目立たない所にある。しかし、世界的に見ると、観光案内所を国家戦略として組み立て、地域の活性化に役立てている国がある。例えばフランスでは、市町村レベルにあたるコミューンがこの観光案内所を認定し、そこにしっかりと人材を配置して、フランス全土の案内ができるという仕組みを作っている。例えばパリに飛んで観光案内所に行けば、フランスのことを良く知らなくても、旅行者の希望に沿った情報や案内がもらえる。日本でもそうしたことを実現させようと、今年から数人の研究者と研究を始めている。また、オランダのユトレヒトにも、大変立派な国際観光案内所があり、オランダ全土の観光案内ができる。横浜駅は先程から議論に出っていますが、羽田という国際空港化した拠点空港を近くに持ち、アジアに開かれている。羽田に着いた方が京急を使って横浜駅に着いた時に、横浜駅にしっかりと案内所があり、日本の観光をするにはそこを尋ねていけば十分大丈夫だという拠点を是非作るべきである。先日、東京の丸の内や渋谷にその東京版が出来た。丸の内では仲通りという雰囲気の中に外国人の方を招き入れて、そこから日本を観光していただきたいという思いで拠点を作ったが、横浜駅ではそれとは違う羽田空港との関係があるので、是非そういう拠点を作り、特にアジアの方は安心して日本国内の旅行が出来るのだという情報を、世界・アジアに発信していただきたいと思っている。

○及川副座長

- ・ 都市の魅力はとにかく安全・安心・快適以外にない。平成 16 年の台風の際は、西口

議事要旨

の地下街に水が流れ込み、道路が川のようになった。そうした災害が、普段から起こり得る気象状況になってきている。津波への対策だけでなく、普段の水の処理、治水も非常に大事だと思っている。また、避難している人から、なぜこんな遠くまで連れて行くのだという言葉があった。水に対する総合的な知識・情報をどうやって活かすように周知するかが大切である。

- ・ このプロジェクトは相当長く続くことは間違いない。今、西口の J R ・ 東急の工事が進行中だが、工事が終了するまでの約 8 年の間をどう快適に過ごしていくかは、商業地としての魅力を保持する上で一番大切なことと思う。工事中であっても、その先に夢があることを、どう具体化させていくか。これはみんなの知恵かも知れないが、行政にも是非、色々と見聞があろうかと思うので、ご指導の程いただければと思うし、我々も努力をさせていただきたいと思う。

○小谷副座長

- ・ これまで、横浜市では、さまざまな事業について、マスタープランの策定やプロジェクトの立ち上げなどが行われてきたが、なかなか実行が伴わず、計画倒れや実施時期が確定しないということが多かった。しかし、座長である鈴木副市長がエキサイトよこはま 2 2 の計画策定に携わってこられたので、今回は頑張っていただけのもので期待している。
- ・ スカイツリー、渋谷のヒカリエ、お台場のダイバーシティと、この一ヶ月だけでも 3 つの施設が東京に出来、地域間競争がますます激しくなる。コンベンション機能にしても、千葉には幕張メッセ、東京にはビッグサイトがあり、近場での競争ではあるが、横浜のコンベンション機能を充実させていただきたい。
- ・ みなとみらい地区、ポートサイド地区を結ぶ栄本町線支線 1 号線の整備、駅の東西を結ぶ歩行者ネットワークの整備をお願いしたい。これは民間では出来ることではないので、計画を主導されている市で対応をお願いしたい。

○中田委員

- ・ 横浜市としては、横浜駅周辺地区、みなとみらい 2 1 地区、関内・関外地区の都心部全体を、今後どのように重点的に活性化を図っていくかが最大の課題であり、3 つの地区が一体となって互いを刺激しあいながら活性化することが大事である。横浜の持っている財産として港があり、オールドアンドニューという言葉が謳われているよう

議事要旨

に、新しいものを取り入れながら、港と歴史を感じさせるまちとして古い良いものを継承していくことが、横浜の魅力を高めていくことになると思う。港や海からの景観も含めて、横浜の都心部は港を中心として成り立っているのだということを、しっかりと皆様と共有していければ有り難いと思っている。

- ・ 一つの地区だけが突出するという訳でなく、三地区が揃って進めていくことと併せて、行政がきちんと基盤を整えること、民間の開発がガイドラインの中でしっかり担われること、それらをきちんとマネジメントしていくこと、この三つが一体となることでまちづくりが成り立っていくのではないかとと思っている。横浜の活性化、横浜が世界に認められる都市として飛躍していくために、皆様のお力添えを頂きたい。